



ともえ基金

ともえ基金会報
2012年3月25日
創刊号 発行
発行人 沢知恵



ともえ基金 創設のあいさつ

沢知恵

いつも応援してくださり、ありがとうございます。

このたび「ともえ基金」を立ち上げました。「ともえ基金」は、「大島青松園コンサートを支える会」の延長に創設したコンサート基金です。

2001年から毎年行っているハンセン病療養所大島青松園コンサートは、無料で行ってきました。コンサートの経費を賄うため、全国のみなさんに(海外からも!)支えていただいています。おかげさまで、なんとかここまでつづけることができました。心から感謝申し上げます。大島青松園コンサートをつづけてゆくために、今後は「ともえ基金」にて、さらなるご支援をお願いします。

国と和解はしたものの、風化され、将来が見えず、いまだに差別・偏見があるハンセン病問題について、ひとりでも多くの人に知ってもらいたい。そして、私が出会ったハンセン病患者のみなさんに、「忘れない」というメッセージを送りつづけてたいです。

東日本大震災直後のことです。何もできないもどかしさと無力感に、呆然と立ち尽くしているとき、ある二人の方から、「東北に沢さんのうたを届けてください」とカンパをいただきました。おひとは直接コモエスタの口座に振り込まれ、もうおひとは、コンサート会場でスタッフに封筒を預けられたため、受け取ったあとに事情がわかりました。びっくりすると同時に、お二人の思いに心動かされ、私のうたで何かできるだろうか、と思いました。あれから少しずつ東北に出かけて、お二人の思いを届けることができました。この場を借りて、お礼申し上げます。

被災地のみなさんが、私のうたに涙したり笑ったりしてくださるのを見て、音楽にできることはたしかにある、との実感を深めています。これからも東北に出かけて、うたを届けたいです。思いっきり泣いたり笑ったりしてもらいたいし、

何よりいっしょにうたいたいです。そんな機会をたくさんたくさんつくりたいです。

「ともえ基金」は、おもに大島青松園コンサートを支えていただくものですが、大島青松園コンサートの経費がじゅうぶんに満たされた上で、可能であれば、次のような場所でのコンサートも支えていただけたらと願っています。

- ・災害被災地
- ・少年院
- ・児童養護施設など

対象となるのは、予算がないため経費が出ない無料コンサートにかぎります。またコンサートをする意義が明確で、私が見なさんにその報告をきちんとできるものにかぎります。

「ともえ基金」の中から、出演料をいただくことはありません。

会計報告は月刊メルマガのコモ♪メールと、年1回以上発行予定の会報にて、責任をもって行います。原則として、3月1日から翌2月末日を1期とします。

また「ともえ基金」が支えるコンサートについては、サイトのスケジュールなどに、そのことを明記します。

金額は問いません。ご賛同くださる方は、あなたのお気持ちをいただければさいわいです。

「ともえ基金」の趣旨にふさわしいコンサート企画がありましたら、お声がけください。こんなところでうたってほしい、と声を聞かせてください。そして、公開のコンサートのときは、ぜひ応援に来てください。「ともえ基金」は、あなたが参加するプロジェクトです。

どうぞよろしく申し上げます。

大島青松園 コンサート2011 報告

沢 知恵

2011年8月27日土曜日、11回目となる大島でのコンサートを無事行うことができました。

この10年で入所者の数は半減して100人を切り、ステージからの眺めは様変わりしました。入所者の方が少なくなった分、あたらしいのちが増え、にぎやかさは年々増している気がします。不思議です。今年もおおぜいの方が島の内外から会場に来てくださり、あたたかいコンサートになりました。ありがとうございます。

いつも冒頭は真真中に立って、アカペラで1曲うたいます。今年は《アメジジング・グレイス》。真っ暗な雲海のような客席に向かって声を解き放ち、おじぎをして頭を上げたそのとき、え？ 本当？ 最前列に、塔和子さんと曾我野一美さんが車椅子でデーンとかまえていらっしやるのが視界に入りました。にわかには信じがたく、一瞬夢を見ているのではないかと思いました。

塔和子さんも曾我野一美さんも、幼いころ私が父に連れられて大島青松園を訪ねたときから私を知ってくださり、親しいお交わりをいただいている方々。お二人とも80歳を過ぎていらっしやいます。塔さんは高見順賞を受賞した詩人。曾我野さんは国賠訴訟の先頭の立って闘われた全国ハンセン病療養所入所者協議会の元会長です。私が心から尊敬し、慕い申し上げているお二人です。

塔さんは寝たきりで、もはや自らの意思を述べることはできません。曾我野さんも奇跡的に回復なさったようですが、一時は病状が深刻な状況にあったと聞いていました。そのお二人が目の前に。うれしさとともに、緊張が走りました。

実は、今回大島のコンサートで、初めて塔和子さんの詩を8編弾き語るつもりをしていたのです。2011年5月に東京の国立ハンセン病資料館で「塔和子展」に合わせて行われた「塔和子をうたう」で披露したうたを大島でも、と。まさかご本人の目の前でうたえるとは。

塔さんは「ア～、ア～」と合いの手を入れるようにして、コンサートを楽しんでくださり、そのとなりで曾我野さんは、1曲ごとに盛大な拍手をしてくださりました。車椅子に座って弱々しいお二人が、圧倒的なオーラを放っていらして、力強く見えました。

途中で塔さんが退場されるのを見て、え～？ 塔さんのうたはもう少しあとなのに～、とあせりました。さいわいゲストの中川五郎さんがうたってくださる間、私は客席において、親しい職員の方に、「ねえ、なんとか塔さんを連れ戻して下さらない？ あと20分後にはうたうから。これが最初で最後かもしれないから」と懇願しました。親切な職員の方のおかげで塔さんは戻られ、間に合いました。

そして弾き語った塔和子さんの詩。塔さんは終始「ア～、ア～」と、あの低い声で応答してくださりました。最後の《胸

の泉に》のとき、酸素の吸入が必要になってとうとう退場を余儀なくされ、客席のど真ん中を出て行かれました。会場みんなで大合唱する「♪かかわらなければ、かかわらなければ」の渦の中、まるで花道のようにして。私は感極まってしまい、扉が開まる直前に「塔さん、ありがとう！」と叫びました。生涯忘れられないコンサートになりました。

翌日塔さんを病棟におたずねしたら、いつもにまして積極的にお話してくださいました。あきらかに何かを私に伝えたいというふうで、「ありがとう」と「さようなら」以外聞き取れなかったのが残念でなりません。私も「ありがとう」と何度も言って手を握りました。「これからもずっと塔さんの詩をうたいますからね」とも。

お客さんもスタッフも全員見送り、島に子どもと三人で残った日曜日。6歳の娘の口から初めて出た問い。「おかあさん、はんせんびょうって、なあに？」赤ちゃんのときから大島に来て、入所者のみなさんにかわいがってもらっている娘にとって、ハンセン病の後遺症はあたりまえのものであって「問題」ではなかったのです。大島で生まれ育った子どもたちも、ある年齢になって改めて説明しないとわからない、と聞いたことがあります。私も娘に問われるまでは、あえて説明しないつもりでいました。そして、ついにそのときがやってきたのです。ひととお説明をすると、娘は神妙な顔つきをして、「大島のおじいちゃん、おばあちゃんたち、かわいそうだったね」と言いました。

祖父、父から私が受け継いだ小さなバトンを娘に渡せた気がして、胸がいっぱいになりました。

※この文章は大島青松園の入所者による自治会の隔月刊誌「青松」に沢知恵が連載している「旅芸人日記」に加筆したものです。



1971年夏 両親と初めて訪れた大島青松園にて



© 桃山龍太

大島青松園コンサート 2011 大島案内ひきうけ会社のみなさん、中川五郎さんといっしょに《故郷》

正しい理解を目指して・・・

ハンセン病 Q&A

Q. ハンセン病とは？

A. ハンセン病は、1873年にノルウェーのハンセン医師が発見した「らい菌」という細菌による感染症です。体の末梢神経がまひしたり、皮膚がただれたような状態になるのが特徴で、病気が進むと容姿や手足が変形することがあります。

Q. ハンセン病は治るのですか？

A. 1943年にプロミンという薬が発見されて以降、100%治る病気となりました。ハンセン病患者ではなく、ハンセン病「元」患者あるいは回復者と呼ぶのはそのためです。体の変形は後遺症によるものです。

Q. ハンセン病はうつるのですか？

A. 感染力は非常に弱いのです。その証拠に、この90年間で、療養所に勤務する人が感染したことはありません。遺伝病でもありません。

Q. どうして隔離政策がとられたのですか？

A. 感染するのではないかと誤解された結果です。日本では1953年にらい予防法ができて、1996年によく廃止されるまで、国家政策として強制隔離をしました。療養所では厳しい環境における労働の他に、断種、墮胎などの強制手術も行われ、入所者は人権を侵され、心身ともに多大な傷を負いました。2001年、ハンセン病元患者が起こしたハンセン病国家賠償訴訟に勝訴し、国の過ちが全面的に認められ、和解が成立しました。

Q. ハンセン病療養所の現在の状況を教えてください。

A. 全国には13の国立療養所があります。全国ではおよそ2,200の方が生活しています。平均年齢は約81歳です。大島青松園には現在92人あまりの元患者が生活しています。大島青松園は唯一陸続きではない療養所です。(データは2012年3月現在)

Q. ハンセン病の現在の問題は何ですか？

A. らい予防法は廃止され、国との和解も成立しましたが、その保障は不十分なものです。また、社会の偏見はなくなってはおらず、うつるのではないかと間違った知識のもと、差別もなくなっていません。元患者の高齢化が進み、長年過ごしてきた第二の故郷である療養所が統廃合されるのではないかと不安もあります。

Q. 元患者の社会復帰は進んでいますか？

A. ほとんどの方は高齢のため、また身体障害や病気のため入所したままです。差別をおそれて家族と縁を断ち、改名している方も大勢います。コンサートで必ずうたわれる《故郷》には、故郷はあっても帰る家のない元患者のみなさんの切なる思いがこめられています。社会復帰とは、元患者のみなさんが社会に出ることだけではなく、地域が療養所をまるごと社会に受け容れていくことでもあります。

Q. 私たちにできることは何ですか？

A. ハンセン病を正しく理解すること。療養所を訪れる機会をもつこと。退所者と交流をもつことなどです。

Q. 大島ってどんなところ？

A. 瀬戸内海に浮かぶ香川県高松港の東北に位置する周囲7キロほどの島です。1909年「第4区療養所」として発足し、翌年に「大島療養所」となりました。1946年には「国立療養所大島青松園」と改称し、現在に至ります。全島のほとんどが大島青松園として入所者の方の生活の場となっており、園内には入所者寮や病棟の他に、職員宿舎、学校、会館、売店、食堂、郵便局、公園、宗教施設、面会人用宿泊施設等があります。



♪ 沢知恵 大島青松園コンサート 2012

2012年8月25日(土) 大島青松園 大島会館

13:30 開演 入場無料(要整理券)

昼食持参 大島到着後、昼食を取っていただき、自由参加の短い島内ツアー予定

主催：コモエスタ

協力：国立療養所大島青松園、国立療養所大島青松園自治会協和会

後援：全国ハンセン病療養所入所者協議会

※このコンサートは「ともえ基金」に寄せられるお志によって運営されるコンサートです。

入場整理券お申し込み方法

ハガキでお申し込みください。1枚のハガキで2名様までお申し込みいただけます。住所、名前、電話番号、メールアドレス(あれば)、人数(1名か2名)を明記の上、下記あてにお送りください。整理券の発送は、2012年5月20日より先着順に行います。船の定員の都合上、人数に達した場合は締め切りとなりますので、ご容赦ください。

〒285-8691
佐倉郵便局私書箱7号
コモエスタ 大島コンサート係

アクセス

行きは11:00 高松港(香川県)発の船で大島に渡り、帰りは16:30 大島発の船で高松に渡ります。船は無料で、所要時間は約30分です。大島行きの船は、高松港第一桟橋から出ます。高松港は高松駅から徒歩3分、高松空港から車(リムジンバス)で約40分です。

♪ 大島青松園コンサート 2011 会計報告

2010年9月1日から2011年8月31日までの間に、次の方々から計520,420円のお志をいただきました。

石原潔、石村直子、井ノ山、岩永富美子、大畑理博、小澤成行、小野寺多津子、尾前 恵、川崎正明、木佐美経子、S.K.、北村易則、坂村早苗、櫻井博子、佐々木咲野加、佐藤久美、杉本泰郎、関根三枝子、園田真一、高井浩子、高林恭子、高柳直正、谷村教会、堤 剛、永沢佳純、中谷塩子、奈良いずみ、二宮和子、林ひさえ、原田明美、疋田弘助、菱川敦子、平賀明美、福田久美子、藤田洋子、古谷純子、前川京子、前田敦子、前田美希、湯浅照子、横山美知子、吉永小百合、渡辺碩志、桃山龍太、桃山秀美、桃山桜太郎、本居美沙子、山下武志、増田孝子、松田アキヒロ、高田真理子、片山俊夫、新井悦子、宮川マサ、酒井光雄、早川恵子、大野義定、大野裕子、岩坂二規、大島青松園コンサート2011に来てくださったみなさま、大島青松園自治会

(順不同、敬称略)

大島青松園コンサート2010からの繰越金128,388円とあわせて、計648,808円ありました。

大島青松園コンサート2011の支出は、計654,750円でした。

(内訳)	出演者・スタッフ交通費	210,000円
	機材・荷物運搬費	84,000円
	音響費	36,750円
	ピアノ調律費	21,000円
	チラシ・冊子制作費	210,000円
	食費・お弁当代	63,000円
	事務雑費	30,000円

感謝をもって報告します。今後は「ともえ基金」にてご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、「大島青松園コンサートを支える会」は「ともえ基金」に移行しますが、マイナス分は次年度へ繰り越ししません。「ともえ基金」は0(ゼロ)からスタートします。

♪ カンパのお願い

ゆうちょ銀行
00140-3-496892 ともえ基金
他の金融機関からお振り込みの場合は、

ゆうちょ銀行 019(ゼロイチキユウ)支店
当座 496892 ともえ基金

カンパを寄せてくださった方には特製のロゴ入りバッチをさしあげます。

〒285-8691

千葉県佐倉郵便局私書箱7号

有限会社 コモエスタ気付

ともえ基金

FAX: 047-316-1611

E-mail: info@comoesta.co.jp

URL: http://www.comoesta.co.jp